

2

The Entrepreneurial Society 企業家社会

2021.09.13

すべて、それぞれの世代は、新しい革命を必要とする

— トーマス・ジェファーソン —

存在の理由はもはやなくなり、かつての恵みは、悩みの種となる

(新しい世界を作る)

— ゲーテ —

組織、制度、政策は、製品や工程やサービスと同じように、生命を失ったあとも生き延びようとする。

一度つくりあげたメカニズムは、いつもでも生きつづける。

しかし、それを設計する際に前提となったものは妥当性を失っているのである。

たとえば、過去 100 年にわたって、先進諸国において医療制度や年金制度を設計した際に前提とした人口動態統計がその一例である。

まさに「存在の理由は、もはやなくなり、かつての恵みが悩みの種となる」のである。

イノベーションは分権的である。

Suggested Reading

シューペンター

イノベーションの対象領域

(経済発展の理論 1912)

企業家のもたらす動的な不均衡こそ
経済の正常な姿、経済の中心

企業家精神とはすでに行っていること
を上手に行うことよりも、まったく
新しいことを行うことに価値を見
出すこと

それは権威に対する否定の宣言なの
だ。企業家とは秩序を破壊し、解体
するものである。

(創造的破壊)

- ① 新しい財貨の生産
- ② 新しい生産方法の導入
- ③ 新しい販路の開拓
- ④ 原材料の新しい供給源の獲得
- ⑤ 新しい組織の実現

ドラッカー

(七つの機会)

- ① 予期せぬこと
- ② ギャップ 現実とかくあるべきの差
- ③ ニーズ
- ④ 産業市場の構造変化
- ⑤ 人口の変化
- ⑥ 認識の変化
- ⑦ 発明・発見による新知識

創造は破壊

断絶の時代

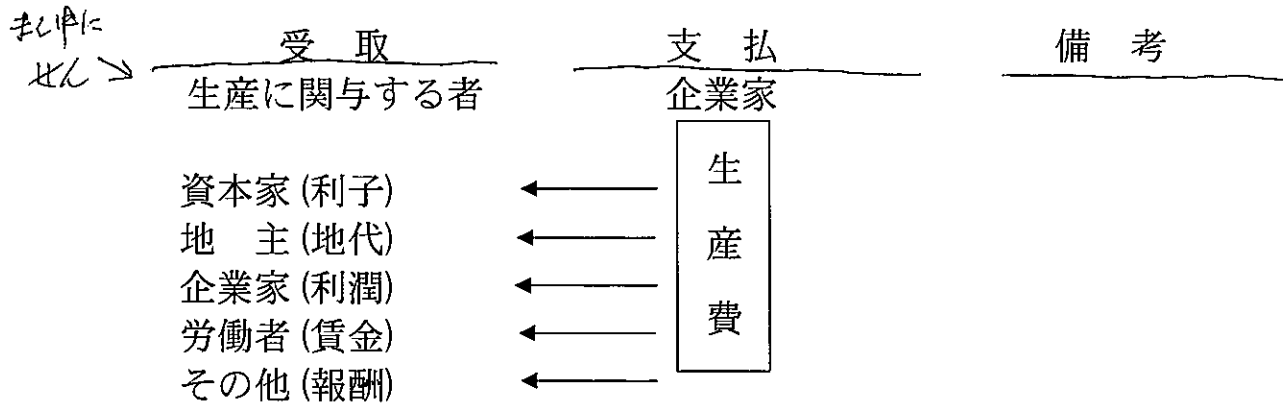
過去の趨勢とは明らかに異なる
四つの地殻変動

- ①新しい産業の時代 スティーブ・ジョブズ
過去の発明と経験→知識に基づく
- ②グローバル化の時代
情報が垣根を超える
- ③組織社会の時代
人々は組織の機会を求めるような
- ④知識の時代
知識が社会や経済の基盤となる
知識の生産性が競争力の源泉となる

1. ケインズは一つの時代を画した

2018.08.05

(1) 全体の理解



貨幣所得の全体
 ⑤
 投資財の生産によって得られるもの

生産費の全体
 E

○

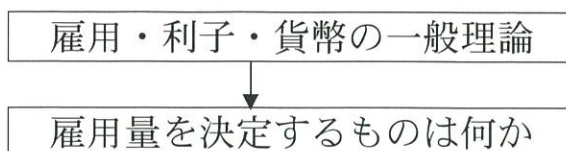
①

≡ 新たな投資の生産費

→ (E - i)

= 投資 i 以外の生産費
 消費財生産費

貨幣所得
 ⑤から消費支出 S
 を差引いたもの
 消費財の生産高
 $R = O - S$
 S P=消費財の平均
 価格 $O = P \times R$



慢性的な失業とその背景にある不況のメカニズムの解明
そして、適切な雇用量を確保するための政策



ケインズ	——	<u>不況の要因を需要不足に求めた ディマンドサイド経済学</u>
従来の経済学	——	不況の要因を供給不足に求めた サプライサイド経済学

(2) 全体の要素 *均をあけず 赤字*

消費財の購入 $\checkmark E - S$

消費財の生産高 R

消費財の平均価格 P

消費財生産者の売上 $R \times R$

従って $E - S = P \times R$

支出の面 $\checkmark R = E - i$
生産者側

*新たに消費の
消費の生産を*

ん

収入の面 $E - S$
消費財の購入

Sとiとがイコールであれば企業家が生産費として支出したのと同額が、消費財の売却によって回収され、企業家にとっては利潤も損失も生じない。(均衡状態)

(3) ケインズは景気を貯蓄 S と投資 I の関係で説明した

$$S = I$$

スミスの場合
(均衡するとした)

S 大なら不況
 S 小なら好況

ホブソンの場合
(S に着目した)

$S > I$ 不況
 $S < I$ 好況

ケインズの場合
(S と I を比較した)

↓
($E - S$) が大なら不況から脱するとした

E 金残高の減少
費

(4) ケインズ以前と以後

前

失業は一時的な問題で好況になれば消滅し、根本的な問題とされていなかった。
失業の論理はなかった

— 第一次大戦 —
後

ヒコヲサレ、
戦後の世界不況(失業)はいつまで経っても回復の兆候すら見えなかった

ケインズの問題提起

ケインズは、過少雇用の状態を一般的な場合として、それを理論の対象とすることで、失われた理論の実践性を回復しようとした

2. 一般理論のあらまし

(1) 雇用の決定

雇用 企業家が利潤を最大にしようと予想する点に雇用は決まる

企業家の予想収入 (1)その雇用水準で社会が消費に費やすであろう額(d_1)
(2)社会が投資に充てるであろうと予想される額(d_2)

社会全体の有効需要 $D = d_1 + d_2$

消費性向
(消費に対して社会(人々)が抱く心理的な傾向)

所得は雇用の量に依存する

(2) 資本の限界効率と利子率との関係

所得の増加率 K 限界消費性向 C

$$C = 1 - \frac{I}{K}$$

所得の増加の $\frac{9}{10}$ が消費される場合

$$C = 1 - \frac{I}{K} = \frac{9}{10}$$

$$K = 10$$

政府が公共事業を起こし、先ず、万人の人々に職を与え、社会の限界消費性向が $\frac{1}{3}$ の場合

$$K = \frac{1}{(1-C)} = \frac{1}{(1-\frac{1}{3})} = \frac{3}{2} = 1.5$$

となつて、雇用量は 1.5 倍となる → 1 万 5000 人の失業者が雇われる

消費性向が $\frac{2}{3}$ の場合 3 万人雇用、消費性向が $\frac{9}{10}$ の場合 10 万人の雇用

しかし、 K が 1 の場合

$$C = 1 - \frac{I}{K} = 0 \longrightarrow \text{投資分しか増加しない}$$

または、 K が縮小の場合

$$C = 1 - \frac{I}{K} = 1 \longrightarrow \text{無限に増加する}$$

(3) 乗数の理論は、国民経済の総過程を包摂できるほどの理論構造を持ってはいる。

ケインズは、乗数理論において、個人的な域を脱して、社会関係としての投資を貯蓄に着目したことから個人的な $S = I$ の問題は解決された

我が国の戦中の貯蓄奨励→デフレにならないか
戦争投資との関係

利子率
(借入利率)

投資の限界効率
(営業利益率)

(4) 今、沖縄の投資があるということは

本土における投資物件がない、しかし資本はある、だから沖縄へ向かっている

また、沖縄の投資市場は限度がある

↓
又は、投資効率が低くなる

↓
沖縄へ向かっているものに底がつく
又は、投資効率が本土化される
将来を考えることも必要である
時間的なズレではないか

しかし、本土にもないことがはっきりすれば、過剰資本である。
そうすれば来なくなる

(?)

(5) ケインズの理論

- 1、完全雇用の前提の排除
- 2、将来に対する予想の実物経済の重視
生産、貯蓄・・・・
- 3、全体の量を問題にした相対的な分析の排除

(6) 有効需要不足

有効需要が不足する理由

流動性選好から消費拡大へ

投資+消費

消費拡大策

投資乗数効果

公共工事は必要なのか

政府による投資

公共事業

著作

1923年 貨幣改革論
(40才)

1930年 貨幣論
(47才)

1936年 一般理論
(58才) (世界で始めてマクロ経済を体系づけた作品)

一般論における分析の目的は「雇用量を決定するものは何かを発見すること」にあった。

ケインズの問題意識は、なぜ失業が発生し、不況が長引くのかという1930年代の課題であった。

従来の経済理論では、需要と供給が自然に調整され、失業は解決し、不況の雲散する・・・とされていた。

(1) 有効需要不足による不況の発生

(2) その背景には人々が貨幣の保有を望む^動流行性選好がある

トインビー 歴史の研究⑤

(312~361)

2021.09.13

項 目	内 容	備 考
第五篇 第3章 魂の分裂 (312-	<p>1. 内面的、精神的な魂の分裂 社会全体の分裂は、表面的に見える。 しかし、その意義は、内面的かつ精神的な裂け目の、外面的な目に見える徴候である。その底には必ず人間の魂の分裂が見い出される。 能動的、受動的、いづれにせよ創造的でない二つの極に分かれる。</p>	
第4章 解体期の社会と 個人との関係 (328-	<p>2. ミメシス(模倣)の能力 <u>天才的な少数の創造的人格と、多数の機械的な大衆の結合が新しい社会を形成する。</u> しかし、成長から解体への変化にともなって、創造の火種は消え、創造的少数者は、もはや創造力を失って、支配的少数者に変貌する。</p>	
第5章 解体のリズム (330-	<p>3. 成長のリズムと解体のリズム 成長した社会に衰退が起こると、それに対抗するために二度目の挑戦があり、それが成功すれば、ふたたび成長が開始される。この衰退と応戦がくり返されるが、応戦の失敗が最終的なものになると、その社会は滅亡する。第二次世界大戦の終わりに原子力の解放を見たとき、われわれの将来に対する暗い疑念がわき起こる。</p>	
	<p>四大文明と死後の世界</p>	
	<p>(1)中国 人間の生命は天地から与えられたものである。 人間は死んだとき、二つのたましいは、「魂」は天に帰り、「魄」は地下に帰る。「魄」は肉体に残り、地下の世界に住む。それが墓である。死者は現世と同じ生活をするが、地上に出るときは廟に出て来て人間と会う。</p>	

(2)エジプト

現世はあくまでも来世のための準備の世界である。四二の罪を犯していないことが証明されれば、あの世への鍵をもってあの世へ入る。

あの世では、神様と一緒に住み、年に1回、この世に戻ってきて、ミイラと精霊と合体し、自分の子孫と出会う。

ナイル川をはさんで、あちらがあの世で、こちらがこの世である。死ぬために現世で何をするかという、1番最初にまずお墓を確保する。そして、死ぬとミイラ(体)と精霊と魂に分ける。魂はあの世へ行って精霊とミイラはこの世に残る。年に一度、魂はミイラに戻り、精霊もミイラと一体化する。だから死者は永遠である。

(3)メソポタミア

墓がない。天国へ行くとか、地獄に行くとかということはない。死は宿命であり、だから現世を楽しむのであって、死後の世界がどうのこうのというのではない。人間は死んで終わり、泥に戻る。

(4)インダス

人生は一回で、あとはインダス河に流すような感じ。

(5)文明とは何か

文明は一人の特権階級のものか。99%は捨てられている。文字というのは、あくまで支配している人たちの限られた道具、支配者は住民は殺さない。多数の住民をどう合理的に支配するかを考える。侵入破壊者など居ない。

土地にくっついた農民は、征服者にとっては大事な財産。文明とは1%の表現である。だから文明の滅亡は何か。

(大河文明)

項 目	内 容	備 考
第六編 世界国家 (344～	<p>1. 世界国家と不死の幻影</p> <p>(1)世界国家は、衰退した文明の社会体に政治的統一を与えたものである。それは、本物の夏ではなく、秋を覆い隠し、冬を予告する小春日和である。</p> <p>(2)それは、創造力を失ったかつての創造的少数者の消極的所産である。</p> <p>(3)それは、解体の過程における一つの立ち直りである。</p> <p>(4)社会解体過程の一つの局面であり、老人の頑固な寿命である。</p>	
第3章 だれのために (353～	<p>世界国家は一夜の宿であり、「約束の地」ではない。しかし、長い間逃げどおしで立ち止まる余裕のなかった動乱時代の敗走からの立ち直りであるから人々の感情を虜にする。</p>	

2

トインビー 歴史の研究⑥

(362 ~ 389)

202/07.12

項目	内容	備考
第七篇 世界教会 (362-)	<p>1. 癌としての教会</p> <p>世界国家衰退の中で、最大の利益を受け、成長していくのが世界教会である。</p> <p>ギリシア・ローマ社会は、個人と市民の社会への従属の思想の上に築かれていた。</p> <p>国家全体の安全ということを行為の最高目標とし、現世であろうと来世であろうと個人を超えるものであった。</p> <p>東方宗教の普及は、国家の繁栄を超えて、魂の永遠の救済こそ人の唯一の目的とした。現世と地上を軽蔑し、天上の神の都を最高のものとした本来の生活と行為の理想は失われた。</p>	<p>ローマ帝国の衰亡とキリスト教の隆盛</p> <p>個人 < 市民 < 国家 (社会)</p> <p>個人 < 社会</p> <p>社会 < 天の神 (国家) (癌化)</p> <p>個人 < 社会</p>
第2章 さなぎとしての教会 (369-)	<p>(ローマ) 成長した社会</p> <p>社会</p> <p>個人</p> <p>支える社会</p> <p>癌的存続の</p>	
	<p>(序品第一)</p> <p>仏は無量義の教えを説いた後、諸法実相の真理に全精神を集中する三昧におはいりになった。</p> <p>「諸行無常」の意味は、この世のあらゆる現象、諸行は、常でない、いつでも同じではなく、常に変化する。この真実をはっきりと認識する必要がある。</p> <p>また、この世のすべてのものごとは、必ず誰かのものとつながりがある、孤立したものはない。「諸法無我」とはその網の目のようなつながりをいう。</p> <p>「諸法無我」を悟れば、どうして対立や争いが生じ、奪いあい、憎しみあい、殺しあうなんてことが起こる筈はない。</p>	

項目

内容

備考

(法)には四つの意味がある

- (1) ものごと、宇宙の一切のこと
- (2) 真理、ものごとの生と滅をとらえた真理
- (3) 教え、その時々正しい、ふさわしい教え
- (4) 喜びごとの実践、自利利他、自益益他

—鳩摩羅什はこれを「妙法」と翻訳した。これは最高の妙法である。

法

空の平等、
 真理 → 妙法
 正しい教え
 自利利他

3

トインビー 歴史の研究⑦

(390-477)

2021.07.19

項目	内容	備考
第八篇 第1章 英雄時代 (390-	<p>1. 社会的堰堤 <i>yan di tam</i> 軍事的「リーメス(堤防、堰堤)」は、技術と力の巨犬^は記念物であるが、不安定なものである。なぜなら、自然に対する反抗は、「<u>離れわざ</u>」であり、それを敢行すれば、人間はかならずそのむくいを受けねばならない。</p> <p>2. 利己性と利他性 この世において<u>自己を実現する</u>ものは、利己性と利他性である。 (1) <u>利己性</u>—<u>宇宙を自分のまわりに体系づけようとする試み</u>であり、生き抜くうえでの条件であり、その生命の現れである。 (2) <u>利他性</u>—<u>愛のこと、その代価が死である。宇宙から搾取するのではなくて、献身する</u>という自己犠牲、自己献身である。 <u>人は、真の自己充足を得るには、利他性しかない。</u></p>	
	<p>3. 労働組合と人間 賃上 — <u>競争力減</u> — 倒産 — 失業 賃金 UP 価格値上</p> <p>F社(職務脆弱、赤字) 賃上 — <u>ストライキ</u> — 倒産 — 失業 労働条件改訂</p>	
	<p style="text-align: center;">自由主義的企業</p> <p style="text-align: center;">自利、自己の貪欲 ————— 自己の死、利他 (貪欲は美德である) (規則性なき故の破滅)</p> <p style="text-align: center;">↓ 社会主義的企業</p> <p>しかし、労働者は、企業に対して同じくらい激しく抵抗する。 (1) マルクスは雇用者を侮蔑し、労働者を理想視した。 (2) マルクス主義者は、雇用者の搾取を抑制し、社会主義の到来を予測した。</p>	

- 7 (3)レーニンが、労働者に幻滅し、やがて彼らに圧力を加えた。
 (4)マルクスが、当時の雇用者たちに加えた酷評は、そのまま今日の労働者たちに当てはまる。
 (5)結局人間の本性は、雇用者も労働者も同じである。

人間の本性を正しく見極め、そこから変革の原理を確立して行かなければならない。従来の変革への試みは、人間自身への究明が不十分なままに、体制や機構の改革だけで社会を変革しようとしたところ、ある一面では成功を収めても、全体としてみれば失敗してきた根本原因があった。

4. 独裁制

日本の徳川家康、漢の劉邦、ローマ帝国のアウグストゥスは、いずれも独裁者でした。

この三人は、彼等の前任者たちの創立した似たような体制が失敗したにも関わらず、いずれも永続的な独裁制の樹立に成功しました。

彼等の成功の因は、より大きな悪を避けるためにはやむを得ないと考える範囲内に、その独裁色を抑えたところにありました。

独裁制は、当時、社会的・政治的無秩序という、より大きな悪を前もって防ぐための、より小さな悪として選ばれたのです。(トインビー)

項 目	内 容	備 考
第 2 章 圧力の増大 (394-		
第九篇 文明の空間的接触 第 1 章 研究領域の拡大 (409-	<p>1. <u>高等宗教の発生地</u></p> <p>すべては、文明の<u>交通の要衝</u>、<u>ロータリー</u>であった。</p> <p>(1) <u>ゾロアスター教・大乘仏教</u> インダス川流域・ガンジス川流域</p> <p>(2) <u>キリスト教</u> シリアのガリラヤ</p> <p>(3) <u>イスラム教</u> 中央シリアで発生</p>	
第 2 章 同時代文明の遭遇 (412-		
第 3 章 同時代文明遭遇の結果 (456-	<p><u>高等宗教の発生地(仏教、キリスト教、回教など)は、すべて活発な文明の交流が行われた地域である。</u></p> <p>インダス川流域、紅海をふちどる中央シリア、この地域は、活発な文明と人の交流が行われたところである。世界史上の文明の数は、インダス文明と殷のシナ文明を加えると全部で 23 になる。</p>	
	<p>(1) 近代西欧文明とロシア 416</p> <p>(2) " とヒンズー世界 426</p> <p>(3) " と極東文明</p> <p>(4) ゼロト主義とヘロデ主義</p>	

第 10 篇 文明の時間的接触	478
1. ルネサンスの概念	478
2. 歴史における法訓と自由	480
(1) 法訓の意味	480
(2) 人間生活の自然法訓への服従	488
(3) 近代の戦争と平和周期	490
(4) 文明の解体と成長	491
(5) <u>歴史における自然法訓</u>	
3. 西欧文明の前途	516
(1) この探求の必要性	516
(2) 第三次世界大戦の可能性	519

23. 経済思想史
(中村隆之著 2018.6 講談社刊)

2021.09.13

No.	内 容	コメント
1.	<p>良いお金儲けと悪いお金儲け、経済学とは</p> <p>良いお金儲けー 人を喜ばせ、結果としてお金も儲ける</p> <p>悪いお金儲けー お客を騙したり、仲間で操作して値をつりあげて儲ける</p> <p>経済学とは、良いお金儲けを促進し、悪いお金儲けを抑制し、社会を良くしようとする学問。</p>	
2.	<p>アダム・スミス以来、答は同じ</p> <p>250年前の人 お金儲けには道徳的 条件が必要である</p> <p>消費者と会社の利益だけでなく、社会に責任を持った企業として、その CSR、自分たちの働きが社会を良くしているという実感があるか。</p>	
3.	<p>ミル、マーシャル</p> <p>企業の金儲けが、スミスの道徳的条件を逸脱し、労働者をフェアに扱わなくなった社会の現実に直面した。 道徳的な資質を持った人間にお金儲けの主役になってもらうことでスミスの精神を回復しようとした。</p>	

No.	内 容	コメント
4.	<p>ケインズは、「お金を持っている人」と「お金を実際に活用する人」が、別々になった世界に直面した。</p> <p>どちらもスミスの条件を満たさない</p> <p>資産所有者のお金儲けは、事業経営者のお金儲けとは違う。事業経営者は、働く力を引き出して価値を生み出し、顧客の喜びを通じてお金儲けをしているか、資産所有者のお金儲けは、いいお金儲けを邪魔している。</p> <p>大胆な改革、ケインズ政策の提唱、ケインズ政策は、「良いお金儲けの道徳的条件を回復するため」の処方箋である。</p>	
5.	<p>マルクスも、ミル、マーシャル、ケインズと同じく、スミスの道徳的条件を回復しようとした経済学者である。</p> <p>マルクスは、スミスの実験が満たされなくなる究極の原因は、「私有財産権」にあると考えた。その「好き勝手」が社会を無視し暴走する「個人的所有者」が主役から降りねばならないとした。「私有」を越えた先にあるものを探求しなければならない。</p> <p>しかし、歴史的には、働く者たちを重視するとした社会主義も失敗した。</p>	
6.	<p>その後の雇用保障や機会均等を政府の力で作り出そうとする「福祉国家体制」も1970年代に経済パフォーマンスの低下に直面して失敗した。</p>	

No.	内 容	コメント
7.	<p>1980年代以降、「ネオ・リベラリズム」(新自由主義)</p> <p>労働者の権利や安定よりも、資本の自由な利益追求を肯定することが、格差はあっても、成長が望める経済社会を作り出すのではないか。しかし・・・</p>	
8.	<p>コーポレート・ガバナンス</p> <p>会社の所有者は株主であり、会社に資源を浪費させないために、会社の体質を改める。すなわち、会社の所有者の株主、広くには消費者、生産者など社会のすべてが、会社の行動を監視する必要がある。これが正しいことである。</p> <p>しかし、経済社会の傾向は、「所有者が後退していく」という方向である。</p>	
9.	<p>所有者が後退していくという方向 (1) ハイエク</p> <p>自由な機会の必要性、それが自然の秩序^トでなる。 そして、所有者は主役から降りてはならない。</p>	
10.	<p>所有者が後退していくという方向 (2) フリードマン</p> <p>「市場主義」、市場は善、政府は悪と断じる。</p>	

No.	内 容	コメント
11.	<p data-bbox="355 297 722 338">ケインズ (1883～1946)</p> <p data-bbox="355 392 1106 479">市場を基本的枠組みとする進歩は第一次世界大戦で崩れた。</p> <p data-bbox="355 533 1126 620">(1) 利子と貯蓄の常識に挑戦、市場の自動調整能力の否定</p> <p data-bbox="355 629 1106 808">「今まで通り」が通じない状況では、過去と現在の条件の違いを見極めて、これまでとは違う新しいやり方に踏み出さなければならない。</p> <p data-bbox="355 817 1126 904">市場には、自動調整能力はない、「ケインズ革命」、「需要の繰り延べ」、「国民経済計算」。</p> <p data-bbox="355 958 1106 1144">「ヴェルサイユ条約」は、敗者ドイツに過酷すぎる。勝者は敗者に恨みをぶつけるよりも、生まれ変わった敗者と共存共栄の関係を築くべきである。</p> <p data-bbox="355 1198 711 1240">(2) 金本位制復帰問題</p> <p data-bbox="355 1294 799 1337">(3) 「投資家」と「企業家」</p> <p data-bbox="355 1346 1106 1525">「投資家」は、資本の利回りを追求する。他人のことは考えずに、金銭的利益だけを追求する。企業の利益、全体の富裕化にはならない。悪いお金儲けである。</p> <p data-bbox="355 1534 1106 1720">「企業家」は、実物資本を動かす。顧客に喜ばれなければならないし、労働者の能力を活かさなければならない。良い金儲けである。</p> <p data-bbox="355 1774 1106 1957">「金融(悪いお金儲け)」が「良いお金儲け」を邪魔している。悪いお金儲けを取り除くためには政府の取り組みが必要である。</p>	

No.

内 容

コメント

(4) ケインズの「一般理論」、「有効需要」
市場の自動調整を唱える従来の経済学を理論
面から破壊しようとした。

有効需要が少なければ、その国の生産資源は
フルに活用されず、余ってしまう。

有効需要とは(実際にどれだけ売れるか)とい
うこと。

企業は売れる見込みがないと仕入れず、雇う
労働者の数は少ない。そうすると人々の消費
需要も低い。

有効需要(=消費+投資)を高めるためには、

(5) 資本市場と有効需要の不足

資本市場とは貯蓄供給と投資需要が、利子率
を媒介にして均衡する場である。

従来の考え方、IS 曲線は均衡する。

(6) 流動性選好理論と不確実性

ケインズの不確実性に関する独特の考え方。

「将来がわからない」という不確実性で確率
的な事態、いや確立すら解らない世界。

事態を完全に見通していない人々が債券を売
買するので、債券価格(利子率)は上がると思う
人が多ければ上がり、下がると思う人が多け
れば下がる。

自作自演の世界(消費者とは無縁の世界)は、
全体のことを考えない。

だから、ケインズは政府の役割を重視する。
政府は利子率を低く促す、公的支出によっ
て、有効需要を高く保つことで、民間企業の
産業投資が活性化する環境を作っていかなけ
ればならないのだ。

No.	内 容	コメント
-----	-----	------

(7) 「金融」が「産業」を乗っ取る「投機資本主義」

ケインズは、資本保有者と実物資本を動かす人は違うという認識を持っていた。株式会社の場合、会社の所有者である株主と、会社を実態として動かしている事業経営者は違うということである。「所有と経営の分離」

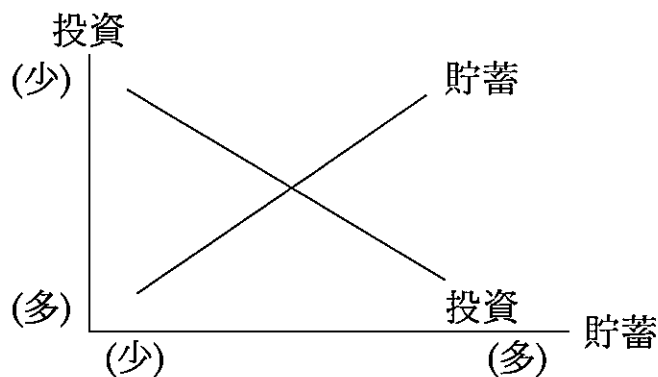
No.	内 容	コメント
-----	-----	------

(7) 「金融」が「産業」を乗っ取る「投機資本主義」

ケインズは、資本保有者と実物資本を動かす人は違うという認識を持っていた。株式会社の場合、会社の所有者である株主と、会社を実態として動かしている事業経営者は違うということである。「所有と経営の分離」

12. 従来の方考え方とケインズ

(1) 利率を媒介として、貯蓄と投資は均衡する



(2) 消費が 90%、貯蓄が 10% のとき、消費を抑え 80%、貯蓄を 20% にすると、10% の投資は 20% になり均衡する。

これなら、消費需要が減っても、投資需要が増えるので、その総和は、すべての資源を使い切った生産価額に等しくなる。

「有効需要の不足」は、あり得ないことになる。

(3) しかし、ケインズは、従来の論理を否定する。

利率は当期のフローである貯蓄と投資を均衡させるように決まるのではなく、ストックである債券と貨幣の間の選択によって決まる、と考える。

(4) 「流動性選好理論」

資産の保有者はどのような形で資産を持てばよいかを選択している。債券が上がりそうだと(将来、利子率が下がりそうだと)考えれば、債券を多く保有し、値下がりしそうだと(将来、利子率が上がりそうだと)考えれば、貨幣に自分の資産を置いておくだらう。この資産保有者たちの予想の結果として、債券価格(利子率)が決まっているのである。この利子率の決まり方を「流動性選好理論」と呼んだ。

(5) 流動性選好理論と不確実性

ケインズは、経済のプレイヤーたちは、「不確実性」な事態と「確率的」な事態すらよくわからない世界で債券を売買している。従って、債券価格は上がると思うひとが多ければ上がり、下がると思う人が多ければ下がる。つまり、債券価格は、参加者がどう考えるか次第である。

そして、投資に対する「貯蓄の持つ意味」が従来の経済学とまったく違ったものになる。彼等は、彼等の慣行的な予想の中で、それが続くかどうかの判断をしているにすぎない。集団的に見れば、自作自演の世界が、利子率を規定し、実物投資水準そしてGDPを規定してしまうのである。だから、ケインズは、政府の役割を重視する。

(6) 政府の役割

2021.09.13

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 14 日 16:45

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十三史记《礼书》

强调, 礼的重要性。

礼是由人的性情做成的规范, 定上天下下庶民所有人的生活, 行动的作仪规范而装饰人。

礼的起源, 调整人的欲望, 防御人的斗争。

人舍身, 性命去干守规范, 反而有完全的人生。

礼的根本, 为天地, 尊祖先, 敬君王。

礼究极的目的是完全装饰, 人心温和起来。

人体安驾乘, 目好五色, 耳乐八音, 口甘五味, 事有宜适, 物有节文。

2021 年 8 月 14 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 14 日 17:51

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十四史记《乐书》

音乐出生人的精神。人感外物，动感情，就情出现声音。

有个声音相应他的声，而调整形式是音。

排列音，上乐器，合跳舞，就叫乐。

乐的根本，总之就是从外物刺激。

衰心发弱，乐心发舒展，善心发广，怒心发粗暴。

就是说，礼乐刑政归于唯一，同民心，安定社会。

2021 年 8 月 14 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021年8月15日 5:26

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十五《律书》用武力的限制, 限界

帝王制定是则, 建立法度, 万物度规则, 六律为万事万物的根本。

“望敌气而知道吉凶, 闻声音而决定胜负”, 这是百代不变的法则。

武王伐紂时, 吹律听声, 而占卜吉凶, 杀气并声相並。

兵事, 是圣人用来对讨伐强暴, 平定乱世, 挽救危殆局面的工具。所以用心这。

反而, 夏桀, 殷紂, 秦二世有势力, 没有用心, 这人民不从, 就灭的原因。

高祖统一天下后, 与民休息, 一旦休战, 也是有萧何, 张良等贤臣, 计谋, 不深防备。

孝文帝即位, 将军劝告伐南越, 朝鲜等征讨。

这时文帝说, 我想用兵, 凶器, 一方面收入并消耗国库, 但是什么想,

战争为百姓远方去辛苦, 百姓不希望内外乱, 烟火万里, 能不忧乱。

2021年8月15号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 15 日 6:07

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十六史记《历书》

历法的意义, 原理, 变迁历史。

夏正以正月, 殷正以十二月, 周正以十一月。

上古时候, 春月作为正月, 这时候冰雪开始消融, 百草蓬生新芽, 顺次经历四季, 最后到了冬天, 万物长了一岁。

帝王受天明而改朝换代, 对于开始必十分慎重。

汉武帝时, 政治安定改定年号, 开始太初元年。

2021 年 8 月 15 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021年8月15日 7:50

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十七史记《天官书》

日，月，星的运行和宇宙界的变异观测。

和人间世界的关联，等记录。

天象的运行，30年叫小变，100年叫中变，500年叫大变。

君主对日异变就德修，月异变就减刑罚，对星异变和敌和睦。

君主势力强大，保持德，就强盛。势力弱小，作委曲事实，就灭亡。

2021年8月15号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021年8月15日 9:25

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十八史记《河渠书》

黄河等河，江，川的治水，水利事业，水利建设的历史。

大禹黄河治水是为中国第一的大事业。

禹走遍九州后，引导河水从积石山（青海省），经过龙门（黄河和汾水合流点），至华阴（陕西华山北），下砥柱（河南东方），到大邳山（河南）。

禹以为黄河从高地势又速度很快，难以治水，困难流平地，所以常常决壤。

于是，他二渠引入河水，到降水（山西，天津）分九河，注入渤海。

他全国余水，利用灌溉，百姓受利益。

西门豹，引邕水注邺田，富裕起来魏河内地方。

韩水工郑国，去秦国，工郑国渠变成关中为沃野。秦国有力。

汉朝文帝时河水修提，武帝时又修提。

2021年8月15号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 15 日 9:56

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十九史记《封禅书》

封禅是，天子报告向天地政治上的成功，在泰山上的国家的祭典。

在泰山上顶，高盛土，祭天帝，在山麓梁父山，地平（禅），祭地神。

史上，最初封禅的帝王是秦始皇。

2021 年 8 月 15 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 15 日 10:29

宛先: peijun zheng

件名: 卷三十史记《平准书》

平准是，做“平”，特别是，物价，财政安定政策。

这事，货币安定，原来货币是为物价，交换，经济，政策的安定和方便。

但是，世上恶运，但有人得到不当的盈利，放社会恶毒的越来越多。

2021 年 8 月 15 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 16 日 5:51

宛先: peijun zheng

件名: 卷三十一史记《吴太伯世家》

吴太伯是周太王之子，王季的兄。

季历十分贤能，又有一个有圣德的儿子昌。

周太王想一定季历以后传位给昌，因此太伯，仲雍二人就逃亡荆蛮。

象当地蛮人一样身上刺满花纹，前断头发，以示不在即位。

季历果然继位，就是王季，昌后来也成为周文王。

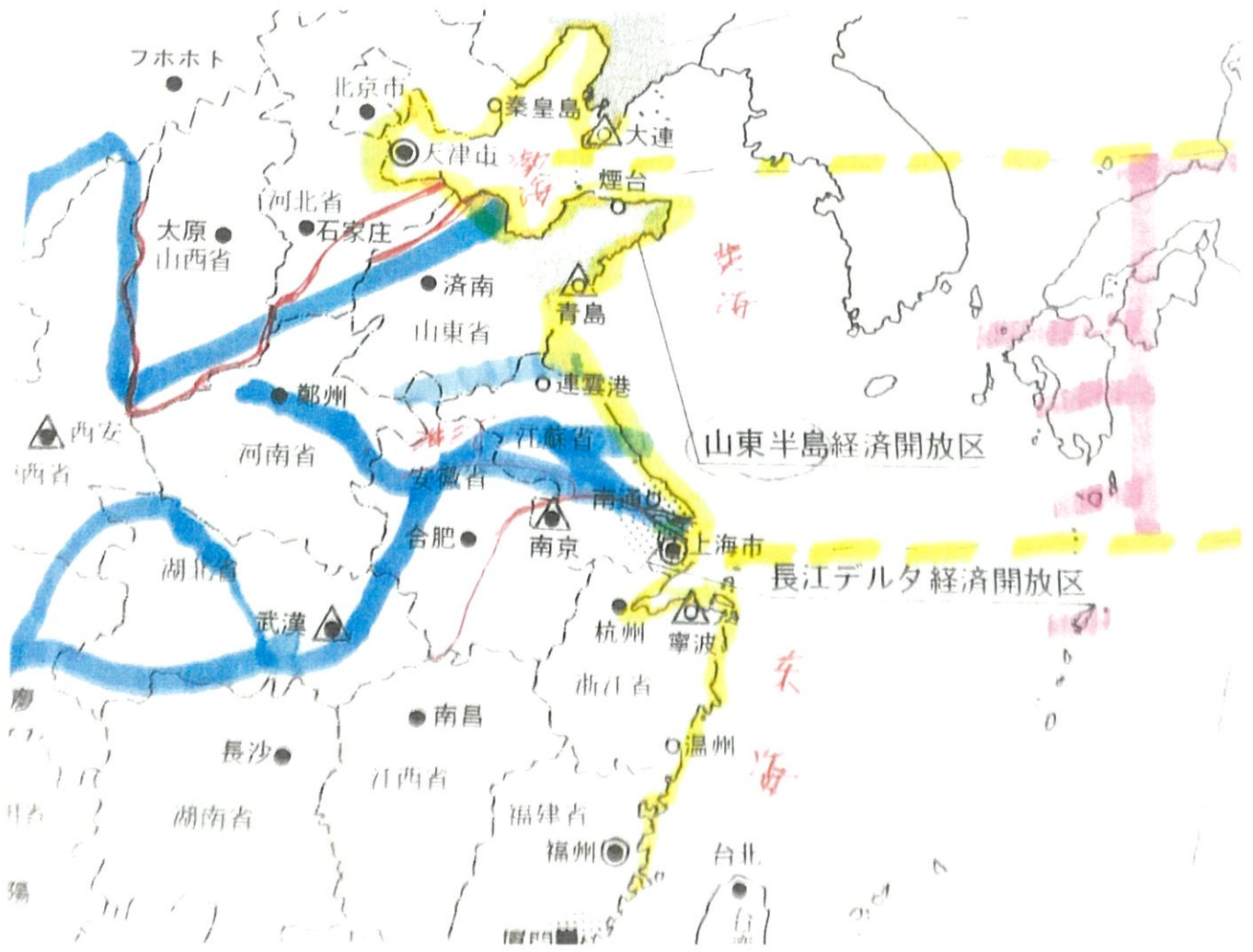
太伯逃至荆蛮（江南地方）后，自称勾吴。

荆蛮人认为太伯很有节义，追随他，他的邑有一千余户，尊立他为吴太伯。

太伯后好几次即位传到吴王阖闾。

2021 年 8 月 16 号

iPad から送信



差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 16 日 20:53

宛先: peijun zheng

件名: 卷三十二史记《齐太公世家》

太公望吕尚，东海边之人，其先祖四岳辅佐，夏禹治水上有大功。姓姜氏。

吕尚曾经穷困，年老时，借钓鱼，机会见周西伯。

这时，西伯將出猎，占卜之，曰，“所得猎物，非龙，非虎，所得霸王之辅”。

西伯与太公谈论后，曰“子吾先君太公曰，当有圣人来周，周会因此兴旺，说的就是您那？”

西伯和太公望，一起回归，立为太师。

武王平定商纣以后，把齐国赏给太公望，

太公到齐国后，修明政事，培养渔业，盐业，开放工商业，因而人民多归到齐国，

齐国成为大国。

2021 年 8 月 16 号

iPad から送信